

からこんにちは！

二期を迎えて 暑熱順化

校長 増本 邦雄

8月25日から82日間の二期期が始まりました。町内にもコロナ第7波の影響はあり、全員がそろふことはできませんでしたが、臨休することなくスタートできました。

夏休み中には、各種大会、伝統行事、町内のイベントなど夏休みにはできない経験がたくさんできましたと思います。中でも、全国少年少女レスリング選手権で全国3位になった山根一夏さん（小6）と山根賢吾さん（小4）の姉弟、県総体バスケットの部で県3位となった男子バスケ部（中学校）の活躍は、すばらしかったと思います。

校舎の方では、昨年夏の水害でダメージを受けた1階床の貼り替え工事。それに併せて図書館改装も行いました。全国の図書館を子どもたちがたくさん来る図書館に改装されてきた「赤木かん子」さんの助言を受けました。町教委の他、いかあ屋、町内ボランティア、知夫・海士の図書館関係者にもご協力いただき、なんとか9月中にリニューアルオープンできました。また、メインアリーナのエアコン設置工事も終了し、子どもたちの教育環境も少しずつ充実してきました。

そんな中スタートした二期期は、たくさん行事があり、大きく成長できる（実りの秋にできる）

学期です。弁論大会、ふるさと演劇、島前陸上、新人戦、合同運動会、音楽会、駅伝、修学旅行、各学年の学習発表など、子どもたちの活躍の場がたくさんあります。そのチャンスも、子どもたちを鍛える場にしたと思います。時には上手いかず辛くて苦しくて泣いたり逃げたりする子も出るかもしれませんが。だからと言って、それを我々大人がやってあげても意味がありません。子どもたちができるように支援していきます。決して見放すことはしません。その上で「学力アップ」「ハートアップ」「パワーアップ」を目指します。

ところで、今年も暑い日が続きましたが、皆さんは熱中症にならないために何をしますか？日中は外に出ない、コマメな休憩・給水などの対策をされる方もいると思います。私は、暑い中あえて外を走ります。（もちろん給水等の対策をした上ですが）「暑熱順化」と言い、体を暑さに慣れさせるのです。熱中症は急に暑くなった日（学校では休み明け）に起きやすく、暑さに耐える力がついていない（暑さに耐える）力がついていないから、ハードルを低くする（暑い日中は外に出ない）。それでは低いハードルを越えることができません、いつまで経っても自分の力でハードル（課題）を越えることはできません。本校の子どもたちには、自分の力でハードル（課題）を越える本物の力を身につけさせたいと思います。

本校の子どもたちの二期期の課題は「自己表現力」です。目標に向かって黙々とがんばる子が多い中、大きな声で自分の気持ちを表現することが苦手な子も多くいます。挨拶の声、校歌の歌声、弁論・演劇の声、音楽会の合唱、など、大きな声で表現してほしいと思います。自分の気持ちを相手にきちんと伝えること。相手のことも考えて、それでも言うべきことはつきり言う力も身につけさせたいです。二期期のたくさんの方々の行事の中で、子どもたちに自らの力でハードルを越える経験をさせ、本物の自己表現力を鍛えていきたいと思っています。保護者、地域の皆様のご理解ご協力をよろしく願います。

中学校

熱演！ふるさと演劇発表会

9月17日（土）、ノアホールにおいて、第16回「ふるさと演劇発表会」を行いました。53名の全校生徒が2班に分かれ、十方拝礼を題材にした「受け継がれる想い」と、隠岐航路を開設した松浦斌氏の生き方を劇にした「隠岐航路の夜明け」が始まりの汽笛」を上演しました。

二期期が始まると、生徒たちはセリフ覚えや動きの練習だけでなく、大背景を描いたり、音響や照明の道具を制作したりと、見ていただく

方々が感動する演劇にしようと協力しながら前向きに取り組みしました。生徒たちは演劇を通してふるさと西ノ島のおさを発見し、本番では音響・照明も相まって迫真の演技を披露し、来場された皆様にも満足いただけた発表会になったのではないかと思います。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。（文責：能海）

A班「隠岐航路の夜明け」

～始まりの汽笛～

あらすじ

明治初めの頃の隠岐の運輸交通は、まだ不安な帆船に頼っていた。明治14年（1881年）、隠岐―本土間に汽船の定期航路が運行されたが、採算が合わず廃止される。

明治17年（1884年）隠岐航路改善のための汽船購入が隠岐四郡町村連合会で話し合われた。議員の一人であった島前焼火神社神官、松浦斌は、汽船の購入と航路運営を実現するために奮闘する。

B班「受け継がれる想い」

あらすじ

今年2年に一度の日吉神社の大祭の年。そこで行われる十方拝礼の踊りの練習に励むのは中学3年生のシュウジ。しかし踊り手が少なく、祭りは行わない、との声が大人からあがる。何とか存続できないものかと大人たちはいろいろと知恵を出し合う。一方、



西ノ島小中学校

踊りを練習するシュウジを同級生のサラは応援する。しかし、サラに片思いするアキラは面白く思わない。ある日、シュウジたちが踊りの練習をしている場面に出くわしたアキラは、シュウジと言いついになり大ゲンカになってしまふ。その日、アキラは父親に「なぜ祭りをするのか」「祭りは本当に必要なのか」と疑問をぶつける。卒業式の日。アキラはずっと謝りたかった思いをシュウジに話そうとするが、伝えることができずにそれぞれの進路へ進む。成人式の夏、西ノ島の同窓会でシュウジとアキラは再会する。

― 来場者の感想より ―

● 今では隠岐汽船はあるのが当たり前と思っていますが、それがあつたことに改めて感謝できる内容で心に刺さりました。悲しみと怒りのシーンの演出が素晴らしかったです。

● 十方拝礼の歴史や開催する想いについて丁寧に描写し、表現できていたと思います。子どもたち一人ひとりが短期間で必死にセリフを覚え、練習する姿を思い浮かべ、目頭が熱くなりました。

● 先生方のサポートがあつてそのふるさと演劇だと思つております。激務多忙の中、ありがとうございます。何年経つても子どもたちの心に深く残ることでしょう。どうぞこれからも続けてください。



▲ B班



▲ A班

隠岐中学校弁論大会

9月7日(水)に本校にて隠岐中学校弁論大会が行われ、3年阿部洸弥さんと2年坂春乃さんが学校代表として参加しました。二人とも夏休みから毎日のように推敲や練習を重ね、表現力を高めてきました。

当日は、練習の成果を発揮した、西ノ島中学校代表にふさわしい立派な発表でした。弁士の二人、そして聴衆として参加した生徒のみなさんには、今回感じたことを今後の学校生活につなげてくれることを期待しています。

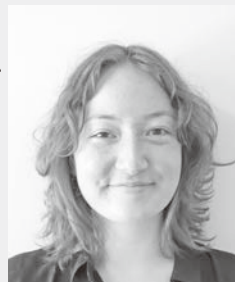
なお、審査の結果、坂春乃さんが優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。(文責：池口)



▲ 学校代表で発表した阿部洸弥さん(左)と坂春乃さん(右)

A・L・T着任の挨拶

イザベラワイマンローレン



イザベラワイマンローレン(ベル先生)です。アメリカ出身です。本校の外国語科、外国語活動でお世話になります。

アリ・グラスゴー



みなさん、こんにちは。西ノ島中学校の新しいA・L・Tのアリ・グラスゴーと申します。出身はアメリカのアラバマ州です。趣味はエッセイを書くこと、料理、歌です。日本にいる間に、西ノ島や他の島を探検し、日本の文化や神話についてたくさん学びたいと思っています。生徒のみなさんと一緒に活動することを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。

